TOKYO TSUSHIN GROUP

2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月11日

上 場 会 社 名　　株式会社東京通信グループ　　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　　7359　　URL　https://www.tokyo-tsushin.com/
代　　表　　者　（役職名）　代表取締役社長CEO　（氏名）　古屋　佑樹
問合せ先責任者　（役職名）　取締役CFO　（氏名）　赤堀　政彦　（TEL）03-6452-4523

配当支払開始予定日　　ー
決算補足説明資料作成の有無　　：有
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	5,887	25.1	272	50.7	273	△58.1	110	△28.3
2025年12月期第３四半期	4,707	11.2	180	ー	653	ー	154	ー

（注）包括利益　2026年12月期第３四半期　141百万円（△75.7%）2025年12月期第３四半期　583百万円（ー%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	11.01	10.99
2025年12月期第３四半期	15.36	15.31

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	3,841	987	22.8
2025年12月期	3,671	890	20.8

（参考）自己資本　2026年12月期第３四半期　875百万円　2025年12月期　764百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
2026年12月期	ー	0.00	ー		
2026年12月期(予想)				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　　：無

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,500	20.6	250	27.9	260	△60.9	110	△52.3	10.92

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　　：有

連結業績予想の修正につきましては、本日（2026年11月11日）公表した「業績予想の上方修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更　　：有

新規　３ 社（社名）　株式会社T-PRO、株式会社iFYOU、株式会社Signal Lab　　除外　－ 社（社名）

当第３四半期連結累計期間より、新たに設立した株式会社T-PRO、株式会社iFYOU及び株式会社Signal Labを連結の範囲に含めております。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：無

④　修正再表示　　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	10,074,422株	2025年12月期	10,074,422株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	－株	2025年12月期	－株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	10,074,422株	2025年12月期３Ｑ	10,074,132株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー　　：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料４ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足資料入手方法について）

四半期決算説明資料は、TDnetで同日開示するとともに当社ホームページに掲載しております。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書 …… 7
第３四半期連結累計期間 …… 7
四半期連結包括利益計算書 …… 8
第３四半期連結累計期間 …… 8
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（セグメント情報等） …… 9
（キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 10
（収益認識関係） …… 10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気が緩やかに回復しているものの、中東情勢や自然災害の影響を注視する必要がある状況が続いております。先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな景気回復を支えることが期待される一方、中東情勢や自然災害の影響に加え、金融資本市場の変動にも注意が必要であり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが事業展開するインターネット広告市場においては、社会のデジタル化を背景に、2025年のインターネット広告費は前年比10.8%増の４兆459億円(※1)となりました。また、インターネット広告費のうち、インターネット広告媒体費は、動画サービスにおける利用者数・利用時間が増加したことで、前年比11.8%増の３兆3,093億円(※1)となっております。

このような事業環境の中で、当社グループは、「創造によって世界中のエモーショナルを刺激する」というパーパスの実現に向けて、ビジョンに「Digital Well-Being」を掲げ、インターネットを通じて人々の心を豊かにするサービスを創造し続けることによって企業価値の持続的な向上を図っております。

当第３四半期連結累計期間における連結業績は、売上高については引き続きメディア事業が牽引し、第３四半期累計として過去最高を更新いたしました。利益面については、メディア事業の利益貢献に加え、プラットフォーム事業におけるSATORI電話占いの好調や、過去のM&Aに伴い計上した顧客関連資産の償却の一部が予定どおり終了したことによる償却費の減少などが寄与し、営業利益は前年同期比で大幅な増益となりました。一方、経常利益については、前年同期に計上した投資有価証券売却益（509百万円）の反動減により、前年同期を大きく下回りました。

以上の結果、当第３四半期連結累計期間における売上高は58億87百万円（前年同期比25.1%増）、営業利益は２億72百万円（同50.7%増）、経常利益は２億73百万円（同58.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は１億10百万円（同28.3%減）、EBITDA（営業利益＋のれん償却費＋減価償却費）は４億81百万円（前年同期比6.5%増）となりました。

（※１）出所　株式会社電通「2025年 日本の広告費」

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、エンタメテック関連事業の成長に伴い、当第３四半期連結累計期間より、セグメント区分を従来の「メディア事業」及び「プラットフォーム事業」の２区分から、「メディア事業」、「プラットフォーム事業」及び「ファンビジネス事業」の３区分へ変更しております。これに伴い、従来のエンタメテック関連事業（「エンタメテック事業」及び「ファンクラブビジネス事業」）は「ファンビジネス事業」に集約しております。

前年同期の数値については、変更後のセグメント区分に組み替えた数値により比較・分析を行っております。

（メディア事業）

メディア事業のセグメント区分には、カジュアルゲームアプリ事業、ハイパーカジュアルゲームアプリ事業及び画像メーカーサービス事業等が属しております。

当第３四半期連結累計期間におけるメディア事業は、各サービスが堅調に推移し、売上高は順調に拡大いたしました。さらなる成長に向けて広告出稿を大幅に強化したことにより、第３四半期単独では利益が減少したものの、ポイ活ゲームアプリのDAUは前四半期末比70.0%増加するなど、成長投資の成果が着実に顕在化しております。また、第３四半期累計期間におけるセグメント利益は前年同期を上回り、増益を確保いたしました。

なお、重要指標である当第３四半期連結累計期間におけるスマートフォンアプリの運用本数(※2)は235本となりました。

以上の結果、売上高は34億34百万円（前年同期比30.6%増）、セグメント利益は３億36百万円（同9.9%増）、EBITDA（営業利益＋のれん償却費＋減価償却費）は３億75百万円（同9.0%増）となりました。

（※２）運用本数とは、広告出稿による運用を伴うすべてのスマートフォンアプリの本数（月平均）としております。

(プラットフォーム事業)

プラットフォーム事業のセグメント区分には、電話占いサービス事業が属しております。

当第３四半期連結累計期間における電話占いサービス事業は、主力の「電話占いカリス」及び「恋愛相談METHOD」が概ね堅調に推移するなか、2023年に株式会社サイバーエージェントから事業譲受した「SATORI電話占い」が好調に推移し、事業譲受以来、過去最高となる月次売上高を更新するなど、今後の成長ドライバーとして期待が高まっており、さらなる事業拡大に向けた取り組みを推進しております。

また、利益面については、過去のM&Aに伴い計上した顧客関連資産の一部について、予定どおり償却が終了したことによる費用負担の軽減などが寄与し、セグメント利益は前年同期比で大幅な増益となりました。

なお、重要指標である当第３四半期連結累計期間における電話占いサービス事業の相談回数は、206千回となりました。

以上の結果、売上高は16億３百万円（前年同期比2.3%増）、セグメント利益は３億24百万円（同41.6%増）、EBITDA（営業利益＋のれん償却費＋減価償却費）は４億88百万円（同6.7%増）となりました。

(ファンビジネス事業)

ファンビジネス事業のセグメント区分には、エンタメテック事業、ファンクラブビジネス事業及びIPグロース事業が属しております。

当第３四半期連結累計期間におけるエンタメテック事業は、推し活×メッセージアプリ「B4ND」において、プロモーション施策の強化等を背景に主力アーティストの会員数が増加し、全体の会員数も増加基調で推移いたしました。これにより、安定的な収益基盤を維持し、継続的に利益を創出しております。

ファンクラブビジネス事業は、所属アイドルグループのオフィシャルサイトにおける月額課金売上が安定的に推移したことに加え、ファンクラブイベントについても、開催に伴う売上増加やその反動による月次変動はみられたものの、概ね順調に推移いたしました。

IPグロース事業は、従来の代理業からIPホルダーへの事業モデルの転換を進めるなか、一時的な費用負担が増加いたしました。特に７月に事業譲受した「WHITE SCORPION」に係る原盤関連費用の計上がセグメント利益を押し下げる要因となりました。今後は保有IPを活用したコンテンツ展開による収益機会の拡大を図るとともに、引き続きアーティスト活動の展開やコンテンツの収益化を推進し、事業の成長及び収益基盤の強化に取り組んでまいります。

以上の結果、売上高は８億19百万円（前年同期比71.2%増）、セグメント利益は３百万円（同92.7%減）、EBITDA（営業利益＋のれん償却費＋減価償却費）は６百万円（同86.0%減）となりました。

(その他)

その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントでありますが、投資事業、デジタルサイネージ事業、メタバース事業及び新規事業開発等に取り組んでおります。

当第３四半期連結累計期間においては、各事業の成長に向けた取り組みを推進するなか、デジタルサイネージ事業において大手商業施設関連の案件が増加し、当第３四半期連結会計期間（７月から９月の３ヶ月間）では黒字を計上いたしました。これらの取り組みが収益性の改善に寄与し、その他の区分全体においてもセグメント損益が大幅に改善いたしました。

以上の結果、売上高は30百万円（前年同期比3.9%減）、セグメント損失は13百万円（前年同期はセグメント損失33百万円）となりました。

（２）財政状態に関する説明

当第３四半期連結会計期間末における財政状態は、資産が38億41百万円（前期末比4.6%増）、負債が28億54百万円（同2.6%増）、純資産は９億87百万円（同10.9%増）となりました。

資産の主な増減要因は、売掛金が１億51百万円増加、償却によりのれん、商標権及び顧客関連資産が１億36百万円減少したこと等によるものであります。

負債の主な増減要因は、未払金が２億３百万円増加、短期借入金が１億69百万円減少、長期借入金（１年内返済予定の長期借入金を含む）が１億25百万円減少したこと等によるものであります。

純資産の主な増減要因は非支配株主持分が13百万円減少、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が１億10百万円増加したこと等によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期の業績予想につきましては、足元の事業の動向を踏まえ、2026年２月12日に公表した業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日（2026年11月11日）公表した「業績予想の上方修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、本資料に記載されている業績予想に関する記述は、本資料の発表日現在における将来に関する前提・見通し・計画に基づく予想であり、リスクや不確定要素を含んでおります。実際の業績は、当社グループの事業を取り巻く経済環境、市場動向等様々な要因により、記述されている業績予想とは大きく異なる可能性があります。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,138,621	1,175,657
売掛金	776,353	927,546
貯蔵品	4,852	17,201
その他	157,734	291,717
貸倒引当金	△9,572	△12,560
流動資産合計	2,067,990	2,399,562
固定資産		
有形固定資産	43,814	41,401
無形固定資産		
のれん	483,289	446,172
商標権	566,363	505,595
顧客関連資産	48,990	10,800
その他	44,226	46,139
無形固定資産合計	1,142,870	1,008,707
投資その他の資産	417,127	392,042
固定資産合計	1,603,812	1,442,151
資産合計	3,671,802	3,841,714
負債の部		
流動負債		
買掛金	185,570	296,976
未払金	478,916	682,340
短期借入金	399,600	230,005
1年内返済予定の長期借入金	851,836	331,738
契約負債	61,011	93,805
未払法人税等	60,022	96,627
預り金	17,832	10,743
ポイント引当金	11,798	21,258
賞与引当金	－	4,550
その他	28,116	36,584
流動負債合計	2,094,703	1,804,629
固定負債		
長期借入金	420,157	814,311
資産除去債務	29,216	29,385
繰延税金負債	237,537	205,780
固定負債合計	686,911	1,049,476
負債合計	2,781,614	2,854,106

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	613,276	613,276
資本剰余金	142,491	142,559
利益剰余金	9,630	120,558
株主資本合計	765,399	876,394
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△556	△974
その他の包括利益累計額合計	△556	△974
新株予約権	26,396	26,396
非支配株主持分	98,949	85,792
純資産合計	890,187	987,607
負債純資産合計	3,671,802	3,841,714

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
売上高	4,707,320	5,887,748
売上原価	919,835	1,299,701
売上総利益	3,787,484	4,588,047
販売費及び一般管理費	3,606,568	4,315,448
営業利益	180,916	272,598
営業外収益		
受取利息	989	2,244
為替差益	－	954
投資有価証券売却益	509,169	46,846
償却債権取立益	1,836	3,518
その他	3,634	7,740
営業外収益合計	515,628	61,303
営業外費用		
支払利息	20,709	25,215
借入手数料	－	12,213
為替差損	7,466	－
持分法による投資損失	6,124	17,135
その他	8,698	5,749
営業外費用合計	42,998	60,314
経常利益	653,546	273,588
税金等調整前四半期純利益	653,546	273,588
法人税、住民税及び事業税	117,601	145,897
法人税等調整額	△47,092	△14,408
法人税等合計	70,509	131,489
四半期純利益	583,037	142,098
非支配株主に帰属する四半期純利益	428,281	31,170
親会社株主に帰属する四半期純利益	154,756	110,927

四半期連結包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
四半期純利益	583,037	142,098
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	917	△417
その他の包括利益合計	917	△417
四半期包括利益	583,955	141,681
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	155,674	110,510
非支配株主に係る四半期包括利益	428,281	31,170

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ．前第３四半期連結累計期間(自　2025年１月１日　至　2025年９月30日)

１．　報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注）１	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	メディア事業	プラットフォーム事業	ファンビジネス事業	計			
売上高							
一時点で移転される財又はサービス	2,612,336	1,564,516	240,471	4,417,325	17,501	－	4,434,827
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	18,274	1,907	238,270	258,452	14,040	－	272,492
顧客との契約から生じる収益	2,630,611	1,566,423	478,742	4,675,777	31,542	－	4,707,320
外部顧客への売上高	2,630,611	1,566,423	478,742	4,675,777	31,542	－	4,707,320
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	26,335	△26,335	－
計	2,630,611	1,566,423	478,742	4,675,777	57,878	△26,335	4,707,320
セグメント利益又は損失（△）	306,500	229,397	48,445	584,342	△33,222	△370,204	180,916

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資事業、デジタルサイネージ事業、メタバース事業及び新規事業開発等であります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額△370,204千円は、主に一般管理費等の各報告セグメントに配賦されない全社費用であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ．当第３四半期連結累計期間(自　2026年１月１日　至　2026年９月30日)

１．　報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他(注)１	調整額(注)２	四半期連結損益計算書計上額(注)３
	メディア事業	プラットフォーム事業	ファンビジネス事業	計			
売上高							
一時点で移転される財又はサービス	3,317,770	1,603,218	594,703	5,515,693	27,388	－	5,543,082
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	116,747	－	225,000	341,747	2,918	－	344,666
顧客との契約から生じる収益	3,434,517	1,603,218	819,704	5,857,441	30,307	－	5,887,748
外部顧客への売上高	3,434,517	1,603,218	819,704	5,857,441	30,307	－	5,887,748
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	8	－	8	－	△8	－
計	3,434,517	1,603,226	819,704	5,857,449	30,307	△8	5,887,748
セグメント利益又は損失（△）	336,916	324,926	3,542	665,384	△13,773	△379,012	272,598

(注) １．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資事業、デジタルサイネージ事業、メタバース事業及び新規事業開発等であります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額△379,012千円は、主に一般管理費等の各報告セグメントに配賦されない全社費用であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において、「プラットフォーム事業」及び「その他」に含まれていた「ファンビジネス事業」の量的重要性が増したため、報告セグメントを従来の区分から、「メディア事業」、「プラットフォーム事業」及び「ファンビジネス事業」の３区分に変更しています。

なお、前第３四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成しています。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、当第３四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 (自　2025年１月１日 至　2025年９月30日)	当第３四半期連結累計期間 (自　2026年１月１日 至　2026年９月30日)
減価償却費	176,601千円	111,489千円
のれんの償却額	94,117千円	97,117千円

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。